

通常
上映

インド映画特集

図書館収蔵のインド映画の上映



8.1(土)~8.10(月・祝)は
インドの子ども映画特集



青いマンゴー



ぼくの家出

新型コロナウイルス感染防止のため
下記へのご理解をお願いします。

- 座席数を削減しています。
- 入場にはマスクの着用が必要です。
- 咳エチケットにご協力ください。
- 鑑賞券はトレイにおいてください。
- 職員はマスク・手袋を着用します。

通常上映

インド映画特集

図書館収蔵のインド映画の上映

会期:8月1日(土)~9月8日(火) ※休館日・休映日除く
観覧料:500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

※1日1回上映。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。(チケットの販売は上映の1時間前からです。)
※障がい者の方は無料。福岡市在住の65歳以上の方は250円。(手帳や保険証などの提示が必要です。)
※「わたすクラブ」会員の方は250円。(会員証の提示が必要です。)

8/14(金) 14:00 8/16(日) 14:00

占拠 The Occupation

ベンガル地方。部族民カクラマのリーダー、ポゴンバルは友人の娘アンディの裁判に証人として出廷する。しかしポゴンバルは買収され虚偽の証言をしてしまう。西ベンガル州政府の出資により製作された作品。カースト制度や古い地主制度を告発して、啓蒙を目的としている。映画に登場するカクラマは南インド出身の先住民で、彼らに対する差別が描かれている。本作はインド映画祭で最優秀作品賞を受賞するなど高く評価された。



監督:ゴータム・ゴース
出演:モモタ・ジョンコル
ラビン・シェン・グプト
1981年/35ミリ/カラー/73分/インド
日本語字幕付き

8/21(金) 14:00 8/26(水) 14:00

誓いの炎 With Fire As Witness

タンガムは母親のカーストが低いため親族から差別されていた。彼女の従兄ウンニの妻・デーヴァキは進歩的な思想の持主で、デーヴァキに影響されたタンガムは学問の道を志す。1930年代のインドが舞台。「誓いの炎」とは結婚の儀式に使われる炎のこと。自由を求める2人の女性を主人公とした物語で、家族と個人など様々な要素が盛り込まれ、複雑な味わいを残す感動作である。



監督:シャーマブラサード
出演:ラジット・カプール
ショーバナ
1998年/35ミリ/カラー/111分/インド
日本語・英語字幕付き

8/28(金) 14:00 8/29(土) 14:00

ヴァナジャ Vanaja

南インドの村。漁師の娘・ヴァナジャはダンスが好きで、有名なダンサーだった地主の家で働く。聡明なヴァナジャはめきめきと上達していく。しかしある日外国から帰国した地主の息子に襲われてしまう。アメリカ・コロンビア大学に留学した監督が卒業制作として完成させた映画。ヴァナジャ役のママタ・ブーキヤは現地のオーディションで選ばれた15歳の少女。ダンスはクチプティ舞踊というインド古典舞踊。



監督:ラージネーシュドーマラバハリ
出演:ラーマチャンドライア・マツリカンティ
ママタ・ブーキヤ
2006年/35ミリ/カラー/111分
インド=アメリカ/日本語・英語字幕付き

8/13(木) 14:00 8/15(土) 14:00

妻は、はるか日本に The Japanese Wife

ベンガル地方にすむスネホモイは大学生の時、19歳の日本人女性・ミヤゲとペンフレンドになる。二人とも内向的な性格で気が合った。大学を卒業して先生になったスネホモイに結婚の話が来たことを知ったミヤゲは、スネホモイに求婚する。イギリス在住の作家クナル・バスの原作の映画化。水彩画を思わせる映像。夢を見るように純粋でプラトニックなラブストーリーである。



監督:アバルナ・セン
出演:ラーフル・ボース
高久ちぐさ
2010年/35ミリ/カラー/105分/インド
日本語・英語字幕付き

8/19(水) 14:00 8/22(土) 14:00

飛びたち The Flight

1940年代、インドのアッサム地方。ギリバラは家長の妻になる。家には二人の未亡人がいた。ある日アメリカ人の学者マークが村に古文書の研究にやってくる。かつてインドでは未亡人は再婚が許されなかった。本作は世代の違う未亡人たちの生き方に焦点をあてる。監督は古典的な価値観を一概には否定せず、ギリバラの自由を求める姿を短いセリフの中に繊細に描いていく。



監督:ハントーナ・ボルドロイ
出演:トゥリシャ・サイキア
トム・アルター
1999年/35ミリ/カラー/98分/インド
日本語・英語字幕付き

8/25(火) 14:00 8/27(木) 14:00

悲哀 Pathos

チャーコーチャンとチェーチャンマはゴム園を持つ老夫婦。息子のソニーはアメリカで仕事をしていた。ある日ソニーは勝手に両親の家を売り、二人に老人ホームに入るように伝える。子どもが海外や都会に出て田舎に帰らず、年老いた親だけが残される悲劇を描いているが、監督は数多くの事例に取材しており決して誇張ではない。意図的に暗い画面で作られておりインド映画祭で作品賞を受賞している。



監督:ジャヤラージ
出演:ヴァーヴァアッチャン
エンリヤンマ
1999年/35ミリ/カラー/76分/インド
日本語・英語字幕付き

9/2(水) 14:00 9/4(金) 14:00

へだたり At a Distanse

作家のニールは妹のローズの物語を書くために過去を回想する。母親は裕福な家庭に育ち子供に西洋風の教育を施す。しかし妹のローズは足に障がいがあり家に閉じこもりがちだった。アメリカの劇作家テネシー・ウィリアムズの「ガラスの動物園」を翻案した映画。舞台は70年代のインド・ケーララ州の港町。出口のない現実のなかで崩壊する家族の物語が繊細な映像で描かれる。



監督:シャーマブラサード
出演:ピトヴィラージ
ギートウ・モハンダース
2004年/35ミリ/カラー/92分/インド
日本語・英語字幕付き

8/1(土) 14:00 8/2(日) 14:00

河は流れる *And the River Flows*

インド、アッサム地方。両親を亡くした少女ポキは老婦人のアイタに引き取られる。アイタの夫のコカは高利貸であり村のみんなに嫌われていた。またコカはポキを邪魔なもの扱いする。アッサム地方の生活様式がうかがえる貴重な映画。信じあうこと、許しあうことの大切さが描かれており、本作は大人のための童話であると言える。



監督: ジャヌ・バルア
出演: ビシュヌ・カルゴリア
ガルギ
1999年/35ミリ/カラー/88分/インド
日本語・英語字幕付き

8/5(水) 14:00 8/6(木) 14:00

青いマンゴー *The Raw Mango*

両親を亡くした少女が叔母のターニーの元に預けられる。ターニーは優しいおばさんだが、夫のパウラオは粗暴な男で、愛人を囲っていた。少女は学校に通い次第に友達もできるのだが…。映画は少女の視点で描かれるため大人の事情の大半は描かれない。そのためこの映画は少女の楽しい記憶の中の物語が全面に出ている。シンプルな内容だが、美しい詩情をたたえた傑作である。



監督: アモール・バーレーカル
出演: シルバー・ナヴァルカル
ヨーギター・デーシュムク
1999年/35ミリ/カラー/97分/インド
日本語・英語字幕付き

8/7(金) 14:00 8/8(土) 14:00

ぼくの家出 *Shelter*

ヴィスは8歳の少年。両親は教育熱心で、いつもプレッシャーを感じる。ヴィスは学校に行きたくなかった。ある日我慢できなくなったヴィスは家出して、田舎の祖父の家を目指す。インド南部のケーララ州は教育水準が高く、日本と同じような教育に熱心な親は珍しくない。過度な教育熱で忘れられていることをやさしく描いた映画である。



監督: シヴァン
出演: タルン・クマール
パールヴァティ
1991年/35ミリ/カラー/93分/インド
日本語・英語字幕付き

8/9(日) 14:00 8/10(月・祝) 14:00

少年とハーモニカ *Mouth Organ*

シーブーは11歳の少年。あまり勉強しないシーブーに手をやいた母親は、彼を叔父に預ける。叔父は靴の修理をしており、叔父は仕事の手伝いをさせながら勉強させるのだった。シーブーは腕白で勉強嫌いが、自分で考え物事を解決する能力がある。そして他人を思いやることができる。勉強だけでなく子どもに必要なものを描いた子ども映画の秀作である。



監督: A. K. ビール
出演: ヤークブ・シェーク
ラーム・アワナー
2002年/35ミリ/カラー/80分/インド
日本語・英語字幕付き

9/3(木) 14:00 9/5(土) 14:00

マナサロワールの愛 *Manasarovar*

経営コンサルタントのジョージは、出版社の会社再建プラン作成を依頼される。人員削減を提案するジョージに、女性副社長のマラティーは反対する。「マナサロワール」とは、チベット・カイラス山の麓にある湖の名前で、ヒンドゥー教徒にとっては神聖な場所。監督はアメリカでコンピューターを学んでおり、本作が初監督。低予算の作品だが高く評価された。



監督: アヌーブ・クリアン
出演: アトゥール・クルカルニー
ネーハー・ドゥベイ
2004年/35ミリ/カラー/94分/インド
日本語・英語字幕付き

9/6(日) 14:00 9/8(火) 14:00

シャドー・キル *Shadow Kill*

1940年代のインド南部。死刑執行人のカーリヤッパンは、最後に処刑した者が実は無罪だったのではという疑問を持っていた。罪の意識を感じていた時、王様から死刑執行の命令がくる。この当時死刑執行人は王様から身分を保証され、税金などが免除されていた。死をもたらし、同時に神に近い存在とされたのだ。神聖な存在とされた死刑執行人の苦悩を描いた作品。



監督: アドゥール・ゴバーラクリシュナン
出演: オドゥヴィル・ウンニクリシュナン
スクマーリ
2002年/35ミリ/カラー/90分/インド
日本語・英語字幕付き

8/20(木) 14:00 8/23(日) 14:00

テロリスト *The Terrorist*

19歳の少女マッリは反政府組織の一員。家族はみな組織の一員であり、マッリは子どもの頃から訓練を受けていた。ある日マッリは爆弾を抱えて政府要人を爆殺する任務を与えられる。町のある家庭に入りターゲットを待つマッリだが、それは彼女が初めて経験する普通の生活だった。

この映画は1991年に爆弾テロで殺害されたラジブ・ガンジー元首相の実話をヒントにしている。本作は世界中で起きるテロ活動へのメッセージと言える。しかし単なる社会派の映画ではなく、ひととき印象的なマッリの顔、雨、川といった水のイメージなど映像美と緊迫感にあふれている。監督はマニラトナム監督の「ロージャー」などでカメラマンをしており、本作が初監督である。



監督: サントーシュ・シヴァン
出演: アイエシャ・ダルカル パラメーシュワラン
1998年/35ミリ/カラー/100分/インド/日本語・英語字幕付き





1 土	14:00	河は流れる
2 日	14:00	河は流れる
3 月		休館日
4 火		休映日
5 水	14:00	青いマンゴー
6 木	14:00	青いマンゴー
7 金	14:00	ぼくの家出
8 土	14:00	ぼくの家出
9 日	14:00	少年とハーモニカ
10 月祝	14:00	少年とハーモニカ
11 火		休館日
12 水		休映日
13 木	14:00	妻は、はるか日本に
14 金	14:00	占拠
15 土	14:00	妻は、はるか日本に
16 日	14:00	占拠
17 月		休館日
18 火		休映日
19 水	14:00	飛びたち
20 木	14:00	テロリスト
21 金	14:00	誓いの炎
22 土	14:00	飛びたち
23 日	14:00	テロリスト
24 月		休館日
25 火	14:00	悲哀
26 水	14:00	誓いの炎
27 木	14:00	悲哀
28 金	14:00	ヴァナジャ
29 土	14:00	ヴァナジャ
30 日		自主上映／福岡映画サークル協議会例会
31 月		休館日
9/1 火		休館日
2 水	14:00	へだたり
3 木	14:00	マナサロワールの愛
4 金	14:00	へだたり
5 土	14:00	マナサロワールの愛
6 日	14:00	シャドー・キル
7 月		休館日
8 火	14:00	シャドー・キル

インドの子ども映画

映画製作が盛んなインドでは、子どもの教育用の映画も沢山製作されています。アジアフォーカス・福岡国際映画祭では数多くのインド映画を上映していますが、その中には子どもを主人公にした秀作が多く含まれています。今回上映する「ぼくの家出」「河は流れる」「青いマンゴー」「少年とハーモニカ」はいずれもアジアフォーカス・福岡国際映画祭で日本初公開されたものです。

ただし子どもを描いているとはいえ、親子で見ることを考えていることも特徴です。「ぼくの家出」は親の子どもに対する過度な期待を、「河は流れる」「青いマンゴー」では親を亡くした子どもの境遇など、背景にはインドの課題と親子関係の在り方が問われています。「少年とハーモニカ」のA.K.ビール監督は「子どもが真の自己を見出すのは、何の強制もなしに自由に世界とかかわっていったとき」と語ります。子どもの自由で自発的な意思の表示を大人は許し、理解できるのかが問われます。

映画の物語はどれも難しくありません。でもそこに描かれたことは大人にとって常に考えさせられることではないでしょうか。

自主上映のお知らせ

8月30日(日) 福岡映画サークル協議会例会

上映作品：「風をつかまえた少年」(2018年/113分/イギリス=マラウイ)
①11:00～ ②14:00～

料 金：一般 当日1,400円(前売り1,200円)
シニア 当日1,100円／中高生 当日800円
障がいのある方 当日1,000円

主 催：福岡映画サークル協議会 TEL092-781-2817

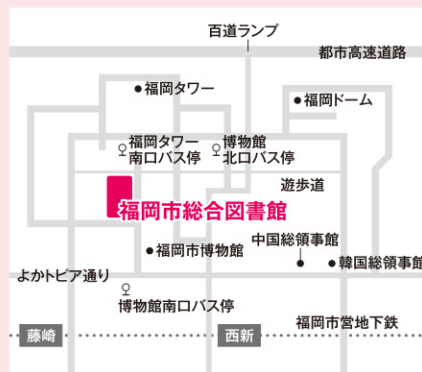
※詳細については直接主催者にお問い合わせください。

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表):tel.092-852-0600 fax.092-852-0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

【市営地下鉄】
西新駅または藤崎駅下車徒歩15分

【西鉄バス】
●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分または博物館南口下車徒歩5分
●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分

○所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については西鉄お客様センター(tel.0570-00-1010)に直接お問い合わせください。